

地域と共に・お客様と共に・従業員と共に

―「みんなの幸せ」の実現へ 株式会社栄港建設のCSR活動

本会には県全域の福祉・医療・保健等の分野の関係者が会員として参加・参画していますが、本会の活動の趣旨に賛同する民間企業も「賛助会員」として参加しています。今号では、賛助会員の活動を紹介します。

横浜市港北区の北新横浜駅近くに社屋を構える(株)栄港建設は昭和57年に創業しました。「現場監督」を担う元請け企業で、家づくりの他、保育所などの福祉施設の建築実績もあり、最近では、地域共生実現への複合型福祉拠点として全国から注目を集めている愛川町の「春日台センターセンター」(福愛川舜寿会)の施工を担いました。

「建物を建てる」ことは、建主である個人や企業・団体にとって夢の実現であり、一大決心でもありません。栄港建設では、そうした想いに応えるオーダーメイドの建物づくりを志向し「建築家との建物づくり」に特化した建設会社」として業界のトップランナーを目指しています。専務理事の岡野美紀子さんは「建設業界も人手不足や高齢化の問題に直面しており、建主の様々な想いに応えるには事業継続・技術承継が欠かせません。従

来の元請け・下請けの関係ではなく、対等なパートナーとして皆で知恵を出し合う場が必要です」と、協力会社が集まって人材確保・育成、共同受注等を協同して行う「協栄会建設協同組合」を令和5年4月に立ち上げました。

●職場体験ワークショップ

このように自社だけでなく建設業界全体の未来も見据えた様々な取り組みの一つとして、栄港建設では、CSR活動で県内の中学生の職業体験の受け皿としてワークショップを行っています。

建築の専門技術である「墨出し」作業などの体験を行います。初めての体験が新鮮で、作業に夢中になる子どもの姿も見られます。また、講師役の社員には「仕事を伝える」ことを通して自身の仕事の見直しの機会になっています。



CSR活動が栄港建設への就職の動機になったという社員が講師として活躍中

岡野さんは「一軒の家を建てる場合にも百以上の工程があり、数十種類もの専門技能・技術をもった職人が関わります。もちろん建設業に興味を抱く機会になったら嬉しいですが、子どもたちが社会には幅広い仕事があることを知って、将来の選択肢を増やすことにつながってくれたら」と話します。

●CSR活動の基本は足元から

栄港建設がCSR活動に取り組み始めたのは10年前からです。

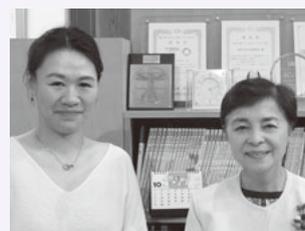
CSR運営責任者である管理部長の中山麻実さんは「顧客の幸せ、地域社会の幸せ、働く人の幸せを叶える、よりよい会社をつくっていくことがCSR活動の基本」と、足元からの取り組みの大切さを話します。地域の福祉団体と連携し、障害のある人の雇用、職場復帰訓練の受け入れも行っています。「受け入れ当初は様々なフォローが必要で、周囲の社員は葛藤があったとは思いますが、関係性ははずっと一方的ではありません。障害のある人と一緒に働くことで他の社員にも得られるものがあります」と中山さん。本人が力を発揮しやすい働き方を本人と一緒に探った結果、体調の波があっても働き続けることができ、職場全体でも短時間正社員制度の創設につながりました。

●社会とのつながりを見つめて

岡野さんは「人は、建物がなければ安全・安心な生活が送れませんので建設業や土木業は社会に欠かせません。しかし、建物をつくって終わり、ではない。CSR活動を通して、もっと広く社会との接点をもつことが仕事の仕方、社会とのつながりを見つめ直すことになりました」と言います。

栄港建設が進める「まちづくり」は、ハード面だけでなく、地域に暮らす人々、企業・団体等がみんな元気になるためのもの。それは「福祉のまちづくり」と重なっています。本会では今後も、様々な分野・領域で活動する企業の方々と一緒に「ともに生きる社会」への取り組みを進めていきたいと考えます。

(総務課)



右から、岡野さん、中山さん。社員の10の心得をまとめた冊子「eiko STYLE」をもとに「栄港建設らしいやり方、考え方」を社員全員で共有している

eiko

株式会社
栄港建設

<https://www.eikou.co.jp/>

